

ボード会議議事録

外部評価としてのまとめ

令和7年2月19日
東京大学先端科学技術研究センター

令和6年度に係る業務の実績に関するボード会議助言・意見

- 令和6年度に係るボード会議の内容……………P.3
- ボード会議の外部評価としてのまとめ
 - I. 評価の項目……………P.4
 - II. 評価の分析……………P.5

○ 令和6年度に係るボード会議の内容

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)のボード会議は、運営状況を常時把握し、運営全般に対する助言及び評価を行っている。本年度は、以下の日時で会合を開催した。

日時: 令和6年11月25日(月)16:45 - 18:30

場所: 先端研4号館2階講堂(ZOOM 併用)

出席者: 以下のとおり。

【ボードメンバー】

氏名	職名
浅川 智恵子	日本科学未来館館長、IBM フェロー
蒲島 郁夫	前熊本県知事
小泉 英明	株式会社日立製作所名誉フェロー
澤 和樹	東京藝術大学顧問
中島 さち子	株式会社 steAm 代表取締役、 音楽家(ジャズピアニスト)
中村 道治	科学技術振興機構名誉理事長
藤井 眞理子	東京大学名誉教授
松本 洋一郎	外務大臣科学技術顧問(外務省参与)
武藤 敏郎	株式会社大和総研名誉理事

【先端研経営戦略室メンバー(*はオブザーバー)】

氏名	職名
杉山 正和	所長、教授(エネルギーシステム分野)
近藤 高志	副所長、教授(高機能材料分野)
岩本 敏	副所長、教授(極小デバイス理工学分野)
稲見 昌彦	副所長、教授(身体情報学分野)
有田 亮太郎	教授(計算物質科学分野)
牧原 出	教授(行政システム分野)
角野 浩史	教授(地球環境化学分野)
伊藤 恵理	教授(航空宇宙モビリティ分野)*
中村 尚	教授(気候変動科学分野)*
西増 弘志	教授(構造生命科学分野)*
星野 歩子	教授(細胞関連医科学分野)*
湯本 道明	経営戦略企画室長、特任教授
小枝 政稚	事務長

◆16:45-17:45 議長指名及び事業報告説明

杉山所長から指名された藤井眞理子委員が議長となった。

杉山所長より、資料に基づきプレゼンテーション形式にて、これまでに行ってきた先端研の事業報告と現在検討を進めている将来戦略の説明を行った。

◆17:45-18:30 事業報告説明に対する質疑応答、意見交換

ボードメンバーから、先端研の現状を踏まえて、組織運営、教育研究活動に対して総合的な観点から多くの有益なご意見、ご助言をいただいた。

○ ボード会議の外部評価としてのまとめ

I. 評価項目

ボード会議メンバーの意見を助言および評価として、つぎの内容としてまとめた。

	項目	助言、評価の内容
1	研究力	<p>引き続き、研究分野を融合する取組や新しい研究分野を作る取組を一層進めていくとともに、半導体研究をはじめとする科学技術成果の平和利用が今後は重要となってくることから、先端研でも積極的に取り組んでほしい。</p> <p>先端研で行われている学際融合をはじめとした様々な取り組みが社会課題の解決に効果があることを実証し、政策に反映させていくべきである。</p>
2	人事体制	<p>女性教員比率が高くなっていることをはじめとして、人事の多様性が進んでいる。今後は人材をどう育てており、どのような分野に進出しているかという事例も発信してほしい。</p>
3	財務体制・社会連携	<p>先端研では寄付に対する取り組みが進んでいる。今後、寄付をベースに良い研究を進めてほしい。</p> <p>社会との連携にあたり、科学技術を活かすことが課題解決につながっている事例については積極的に社会に発信してほしい。</p>
4	教育	<p>先端研は、学術や大学、社会のあり方について踏み込んだ研究を実施していることから、大学教育に波及させるためにも駒場キャンパスの学生に対して関与し続けてほしい。</p>
5	その他	<p>先端研が変化し続けてきていることが示され、社会とどのように共創していくのか、それが生み出す価値が社会に実装されるようにするにはどうしたらいいかを、考える機会ともなった。我が国は、今まで従来型のロードマップでやってきたが、混迷の時代から抜けきれていない。改善や効率化の研究だけでは日本の凋落を防ぎきれないであろう。先端研はどう対応されるか検討いただきたい。</p>

II. 評価の分析

研究力、人事体制、財務体制などに対する助言ならびに評価としての観点から、内容を項目別に整理した。

分析項目	内容
評価事項	優良な、あるいは順調に進行していると評価された内容のもの
検討事項	事業推進にあたり検討するものとして助言をいただいたもの
付帯意見	事業推進にあたり念頭に置くべき事柄として助言のあったもの

1. 研究力

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
研究力	<p>説明を受けて、この10年ぐらいの間に先端という言葉をめぐる、この幅の広さと奥行きが格段に違ってきたと大変印象深く感じた。</p> <p>科学技術分野に芸術が重要である点については、世界の中ではかなり気づいているところも多く、活発なアプローチが今始まっている。先端研がAAD(先端アート・デザイン部門)を作ったり、高野山会議・青少年高野山会議を実施していることは優れている。</p>	<p>研究力の評価の議論で著名な海外学術雑誌に掲載されることが良いとされるが、先端研は新しい研究分野を作っていくことが大切である。</p> <p>世界的にも Interdisciplinary と言われていることから、先端研でも象徴的な学会を作っても良いのではないかと。また、より国際的な多様性を意識していくことが大事ではないかと。</p>	<p>分野を融合した取組、コ・クリエーションを進めるためには、研究者自身が『一緒にやろう』と思うように、相手をその気にさせてこちらに引き込まないといけない。どういう気付きを与えていくかが課題となろう。</p> <p>先端研の取組を通じて、芸術・音楽が医療・福祉に非常に効果があるっていうことを実証し、国の政策に取り込んでいただくように進めていただきたい。</p>

2. 人事体制

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
人事体制	多様性が非常に進んでおり、女性の比率が増えている。	特になし	どのような人をどのようにその人達を育てているのか。例えば、女性がどういう分野に進出しているかといったような、より具体的な事例も紹介すると良い。

3. 財務体制・社会連携

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
財務体制	日本は米国に比べると研究に対する寄付の文化というのが遅れているが、先端研ではそれが進みつつあるという点は非常に心強い。	特になし	企業の寄付も活用して良い研究を進めていただきたい。
社会連携	特になし	特になし	障害者の雇用に関しては企業・組織でも課題となっている。先端研での事例は、テクノロジーが最大限に生かされると思うので、こういうテクノロジーを生かすことが非常に効果的であることを提示いただきたい。

4. 学生教育

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
学生教育	先端研は、東大のあり方、大学のあり方、学問のあり方、文化・芸術のあり方、社会のあり方に対してある種踏み込んだ存在となっている。	特になし	駒場キャンパスが近いことを踏まえると、学部生へのアプローチが大切であり、東大において少しかき混ぜる存在になるとすごく意味がある。

5. その他

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	『平和とそして繁栄』が調和することを考えることが大切であるが、先端研将来戦略で検討されており力強く感じた。 先端研がどんどん変わっている報告があり、ますます将来に期待を持った。	我が国は、今までの従来型のロードマップでやっても、混迷の時代には対処できないと考える。改善や効率化の研究だけではますます日本が凋落するばかりである。先端研はどう対応されるか検討いただきたい。	社会とどのように共創していくのか、それが生み出す価値が社会に実装されるようにするにはどうしたらいいかを、私たちはよく考える必要があるということを感じた。

以上